

各区地域包括ケアに関する取組

西 区

〇概況

令和2年3月末現在

【人口動態，地形，生活環境等の地域特性】 西区は，西部地域の山林と農地，東部地域の住宅市街地と大きく二分される。 九州大学移転や土地区画整理事業が進む地域は人口増加，市街化調整区域では人口減少や少子高齢化，離島（3島）など，地域性が顕著になってきている。 【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 ※数値はH31年3月末現在 高齢化率は城南区，早良区に次いで3番目に高く23.2%。校区によって差が大きく，10%程度の校区がある一方，30%を越える校区が7校区ある（うち40%超え4校区）。要介護認定率は7区で4番目に高く20.1%。自立した高齢者も多いが，極限まで家族で抱え込む事例あり。 【社会資源（介護サービス事業所や医療機関，地域コミュニティの状況）】 医療・介護の事業所ネットワークが西区内9か所立ち上がり，地域貢献としての活動が進んでいる。 離島における医療・介護サービスの提供については，地理条件や採算性の問題から民間事業所によるサービス提供が困難な状況が深刻化している。	人口（人）	204,361
	高齢者数（人）	47,500
	高齢化率（%）	23.2
	小学校区数	24
	いきいきセンター 圏域数	8

〇地域包括ケアに関する現状と課題

- 1 複合的な問題を抱えた事例が増えており，多職種との連携や支援のタイミング等，支援力のさらなる強化が必要。
- 2 校区間で個人情報取り扱いの考え方に差があり，地域での見守り時など情報共有の場の設定が必要。
- 3 認知症高齢者の増に伴い，認知症理解のための啓発，家族支援，見守り体制の構築が必要。
- 4 「自ら望む人生の最終段階における医療・ケア」が推奨される中，ACPの啓発及び促進が必要。
- 5 介護事業所が不足する離島（能古島）への対応として，交通費や島内移動手段など，事業所への支援が必要。

1. 令和2年度取組の中で，特徴あるもの

取組内容

地域包括ケアシステム（西区版）の構築

今年度の重点目標

- 「ACP」の啓発・促進
もしもの時のために，元気なうちから自身が望む医療やケアについて考え，繰り返し話し合い，共有する取組み（ACP）を専門職と連携し進め，住民一人ひとりの，自助意識の向上，「生活支援」「健康づくり」「介護予防」等の取組みへの参加を促す。
- 認知症の理解と対応
身近な病気となりつつある認知症について，取組みを強化。

リニューアル

新規

拡充

超高齢化を支える西区サミット
～私がつくる地域包括ケアシステム～
専門家によるミニ講演と，「介護予防・健康づくり」，「防災・減災」，「介護事業所等ネットワークの取組み」の実践報告等

市民講座
「ACP（人生会議）について知ろう」
もしもの時のために，元気なうちから自身が望む医療やケアについて考え，話し合い，共有する取組みを周知していく講座（講演，体験コーナー）。
【日時】秋頃（予定）

超高齢化を支えるわがまちサミット
(1) 認知症等をテーマとした映画の上映，グループワークを開催（区内3か所）。
(2) 地域等の希望に応じた在宅介護をテーマとした出前講座を開催（区内3か所）。合わせて市認知症支援課と連携してユマニチュードを普及啓発

認知症サポーター養成講座 健康講座 ・よかトレ実践セッション ・生活習慣病予防，認知症予防，口腔予防等の講座 「高齢者地域支援会議」の実施

2. 令和元年度の取組状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

事例は認知症の方が62%、独居の方が53%、キーパーソン不在もしくは遠方の方が22%で、複合的な問題を抱える方が年々増加傾向。支援会議に医師やネットワークの専門職が参加することで、医療機関との円滑な連携や地域の見守りにつながった。

個別支援会議開催状況 58回

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

彦岐校区 行方不明者捜索訓練

地域と介護事業所等ネットワークが連携し、認知症の理解・対応を学ぶため、声かけ訓練を実施。



金武校区 避難行動要支援者の活用

自治会ごとに要支援者を見守るためのマップを作成。防災をテーマとしたグループワーク開催（1回/年）



「超高齢化を支えるわがまちサミット」の開催

【愛宕校区・姪浜校区・下山門校区】

認知症をテーマとしたドキュメンタリー映画「徘徊～マリン87歳の夏」の上映・グループワークを開催。

グループワークには介護事業所等ネットワークも参加。（3校区合計参加者数 231人）

高齢者地域支援会議
開催状況

・会議開催校区（地区）数：6校区（地区），延べ回数：6回
・検討内容：高齢者の実態・課題について意見交換、地域で高齢者を支えるための解決策を検討、取組み開始。

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組



～事業所ネットワーク実行委員会～

【目的】ネットワーク活動の課題抽出

- 【課題】①ネットワークの活動が周知されていない
②参加団体や参加者が固定化している
③ネットワーク同士で情報交換の機会が少ない



西区事業所ネットワークの紹介冊子作成
定例的なネットワーク会議の実施（1回/月）

圏域連携会議
開催状況

・会議回数：6回
・検討内容：地域課題の共有、ネットワークづくり、事例検討など

④ 区レベルの取組（特徴ある取組）

事業所ネットワーク活動

西区包括主任ケアマネ会（主任ケアマネ会を対象にACP勉強会、キーパーソン不在チェックリストの活用方法検討など）

区地域包括ケア
推進会議開催状況

・区地域包括ケア推進会議 1回
・部会 ①在宅医療・介護部会 1回 ②権利擁護部会 1回 ③生活支援・介護予防部会 1回
・検討結果等：地域と専門職・専門職同士の連携強化、事業所ネットワークとの協働、ACPの普及啓発

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組、事業所ネットワークの活動等

取組	具体的内容
在宅医療地域リーダー会議（コア会議）	7回/年 西区医師会主催（在宅医療推進体制づくりに向けた具体策の協議）
在宅医療市民啓発講座	4回/年（医師会出前講座・民生委員・児童委員を対象とした啓発講座を含む）
多職種連携研修会	2回/年 ブロック支援病院（白十字病院）で1回開催。元年度は、医師会から西区内の病院に研修開催を呼びかけた。春日病院で開催の予定であったが新型コロナウイルスの影響で中止。歯科の講演会を1回実施。14職種197名の参加。アンケートでは9割が講演の内容に「満足」との回答。
同一業種による連絡会開催 ①ケアマネ会、主任ケアマネ会 ②西区・糸島地区訪問看護ステーション連絡会	①西区全体会 2回/年（研修及び連携強化のための情報交換）、圏域レベルでは4ブロックに分かれて事例検討を中心に活動。 ②訪問看護ステーション連絡会 5回/年（区と共催で実施。ステーション間の連携強化のための研修及び情報共有。元年度は、ケアマネとの交流会を2回開催）
医療と介護事業所ネットワーク活動支援	事業所ネットワーク実行委員会の開催 4回/年 圏域や校区に関する情報提供、地域へのつなぎの支援（ふれあいサロンや自主グループ活動支援、小学校認サボ等）、西区事業所ネットワークの紹介冊子の作成協議
校区ごとの社会資源情報の整理・マッピング インフォーマル情報の整理	区で整理・マッピングを行い、関係機関と情報共有、関係機関との協議に活用